

P型インターフェイス盤 FXZJ004シリーズ 施工説明書

1. はじめに

- P型インターフェイス盤を正しく施工いただくために、設置工事をする前に、この施工説明書をよくお読みください。
- この施工説明書は、標準仕様のP型インターフェイス盤の施工方法について記述しています。特殊仕様のP型インターフェイス盤については別途、外観図・回路図・仕様書などがありますので、十分にご理解の上、施工してください。

注意 P型インターフェイス盤は、FAPJ/FCSJ106/104、FAPGJ/FCSGJ106/104、AAPJ006/004、SAPJ006/004シリーズ以外の受信機には接続できません。接続すると、故障の原因となります。

2. 工事用予備品について

- P型インターフェイス盤には、以下が入っています。
P型インターフェイス盤 施工説明書（本書） 1部
短絡プラグ *1 15個

*1：短絡プラグは、5回線ごとのコモン渡り用として使用します。

3. P型インターフェイス盤の設置場所

- 故障や誤動作を防ぐため、以下の場所に設置してください。
- 直射日光の当たらないところ、暖房やボイラーなどからの熱風が直接当たらないところ。
 - 水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがかからないところ。
 - 強力な電磁波を発する機器が周囲にないところ。
 - 振動の少ないところ。
 - 周囲に操作上支障となる障害物のないところ。
 - 常に人がいて、様子を確かめられるところ。
 - 周囲の温度が0～40℃、湿度が20～85%RH（結露なきこと）のところ。
 - 水平に取り付けられるところ。

4. キャビネットの取り付け前に

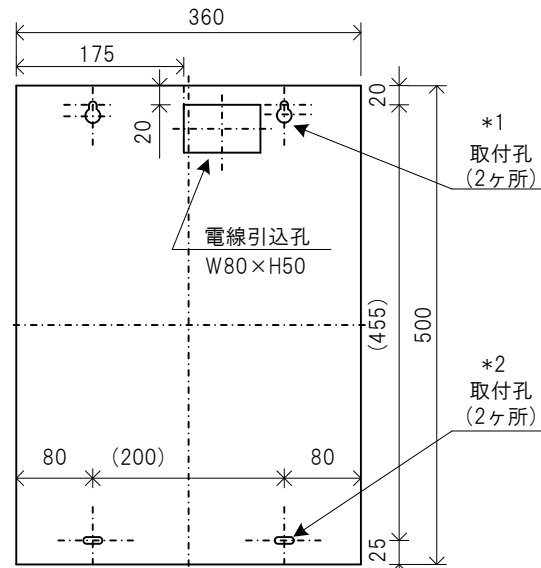
キャビネットはアンカーボルト（M5）または同等品で壁面に取り付けてください。
壁面の強度が弱い場合には、補強材で補強した上で取り付けてください。

注意 P型インターフェイス盤はその重量に十分耐えるように、また転倒しないように強固に取り付けてください。
強固に取り付けなかった場合、脱落・転倒を引き起こし、けがの原因となります。

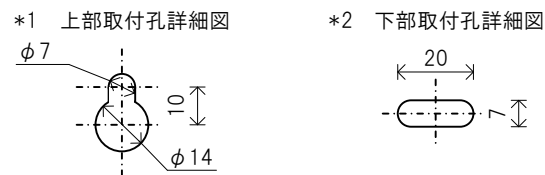
注意 キャビネットに直接穴をあける場合は、切りくずが回路部に入りこまないよう、十分注意してください。
ショートや故障の原因となります。

5. キャビネットの取り付け寸法

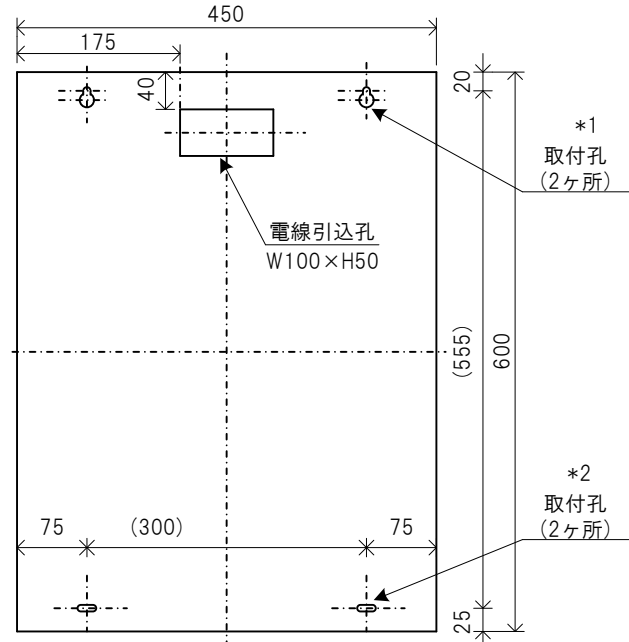
■FXZJ004-E2-20,40,60の場合（E2キャビ）



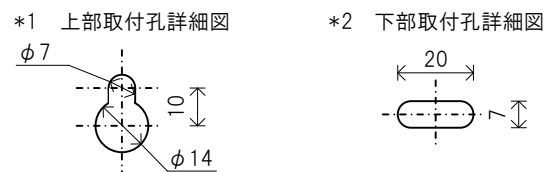
本図は正面からの透視図



■FXZJ004-A2-80,100の場合（A2キャビ）



本図は正面からの透視図



6. 差し込み端子の取り扱い方法

適合電線範囲はφ0.8～1.2mmの単線です。これ以外の単線およびより線の電線は使用できません。また、一つの挿入孔に対し、接続できる電線は1本です。電線が2本以上の場合は、スリーブや中継端子などで電線を1本にまとめてから差し込んでください。

- 差し込み端子への電線の取り付け・取り外し方**
- ・電線の被覆を7mmむき、被覆をむいた部分が見えなくなるまで端子の挿入孔に差し込み、引いて抜けないことを確かめます。
 - ・電線を外すときは、差し込み端子の隣にあるプッシュボタンをマイナスドライバーなどで押しながら、電線を引き抜いてください。

7. データベース設定について

P型インターフェイス盤を正しく運用するには、受信機のデータベースの設定が必要です。
設定方法および確認方法は、別冊の『P型1級火災受信機／複合火災受信機FAPJ/FCSJ106N/S,GP型1級ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機FAPGJ/FCSGJ106N/S,連動操作盤SAPJ006,G型ガスもれ受信機AAPJ006 データベース設定説明書』（TN52079）または『P型火災受信機（FAPJ104,FCSJ104）データベース設定説明書』（TN51551）を参照してください。

8. P型インターフェイス盤増設手順

複数のP型インターフェイス盤を外線で接続することで、FAPJ/FCSJ/FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ、SAPJ006シリーズは最大180点(SOU-104基板×9)、その他のシリーズは最大100点(SOU-104基板×5)まで増設できます。以下の手順に従って増設を行ってください。*1

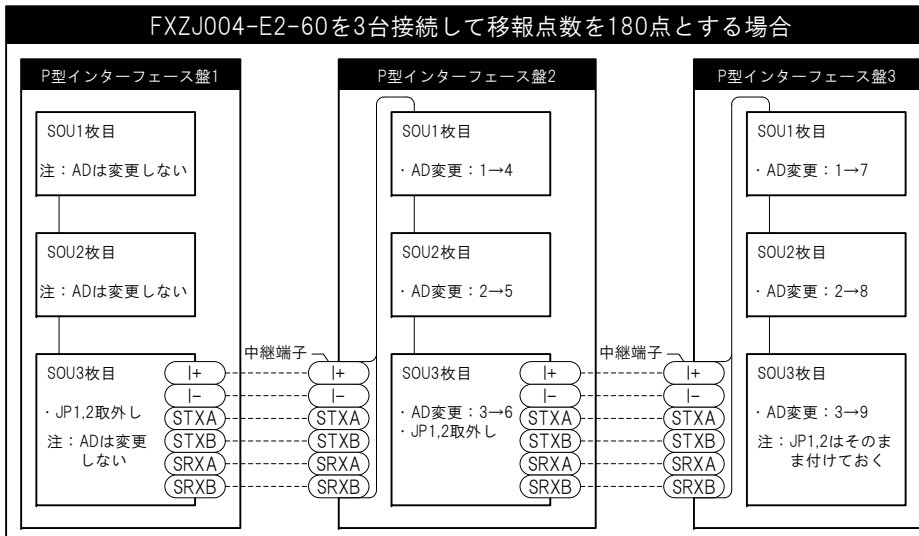
*1：101点以上の移報接点に対応できるのは、PCA1297の末尾が2以降です。末尾が2より前の基板は最大100点です。

- 使うもの**
- ・ドライバー
 - ・ロータリースイッチ変更工具
 - ・全シール *2

*2：盤内の端子記号は全て「S1」からの連番になります。受信機のデータ設定上、同じ番号設定は不可のため端子記号を連番になるように読み替えてください。
端子記号を連番のものに貼り替えたい場合には「FXZJ004 全シール」を別途手配してください。

- 手順**
- ① 外線を送り配線で接続する。分岐配線はできません。
 - ② 全てのSOU-104基板アドレスを1～9の連番になるように設定する。 *3
 - ③ 末端となるP型インターフェイス盤以外の短絡プラグ（終端抵抗用）JP1,2を取り外す。
 - ④ 必要に応じて、全シールの端子シールを上張りする。

*3：アドレスの設定はSOU-104基板上的ロータリースイッチ（SAD）で設定します。

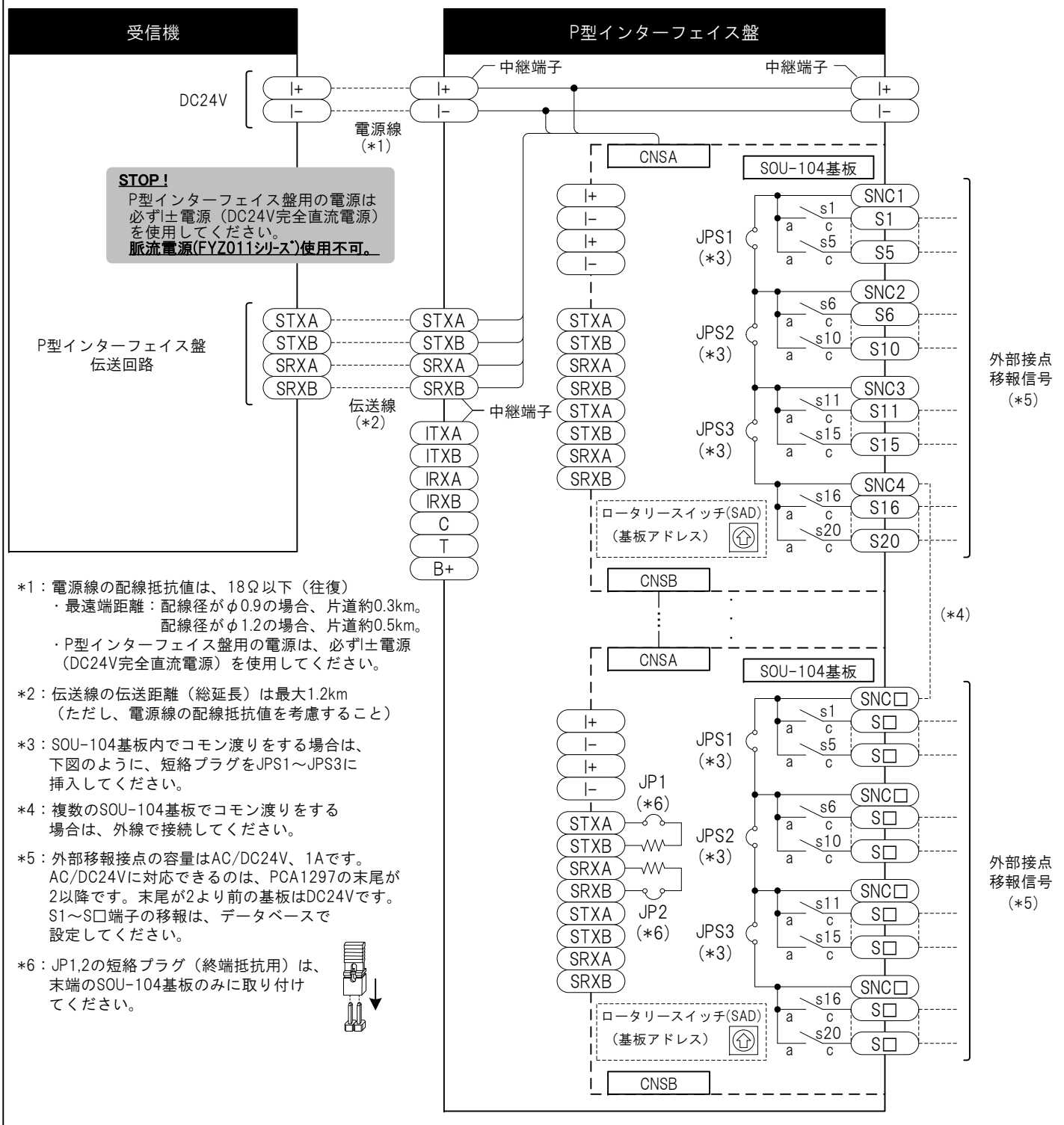


9. 仕様

品名	P型インターフェイス盤				
型名	FXZJ004-E2-20	FXZJ004-E2-40	FXZJ004-E2-60	FXZJ004-A2-80	FXZJ004-A2-100
移報接点数	20	40	60	80	100
SOU-104基板枚数	1	2	3	4	5
接点構成	無電圧a接点、5回線につき1コモン端子 接点容量：AC/DC24V,1A/1回線				
接続可能受信機	FAPJ/FCSJ106/104シリーズ、 FAPGJ/FCSGJ106/104シリーズ、 AAPJ006/004シリーズ、SAPJ006/004シリーズ				
最大接続数	106Nシリーズ、SAPJ006シリーズ： 受信機1台につき180点（SOU-104基板×9枚まで） 106Sシリーズ、104N/Sシリーズ、 AAPJ006/004シリーズ、SAPJ004シリーズ： 受信機1台につき100点（SOU-104基板×5枚まで）				
電線本数	伝送線×4本、電源線×2本				
伝送線	RS485/送り配線（分岐配線不可）とし、 総延長距離は1.2km				
電源線	配線抵抗：18Ω以下（往復） 最遠端距離：φ0.9mmの場合 片道約0.3km φ1.2mmの場合 片道約0.5km				
使用温度範囲	使用温度範囲：0℃～40℃ 使用湿度範囲：20%～85%（結露なきこと）				
外形（W×H×D）	360×500×105mm		450×600×105mm		
質量	約10kg		約14kg		
主材	鋼材 t1.6（本体）、t1.2（扉）				
仕上	焼付塗装：ノーミホワイト （マンセルN8.7半ツヤ近似色）				
付属品	施工説明書、短絡プラグ				

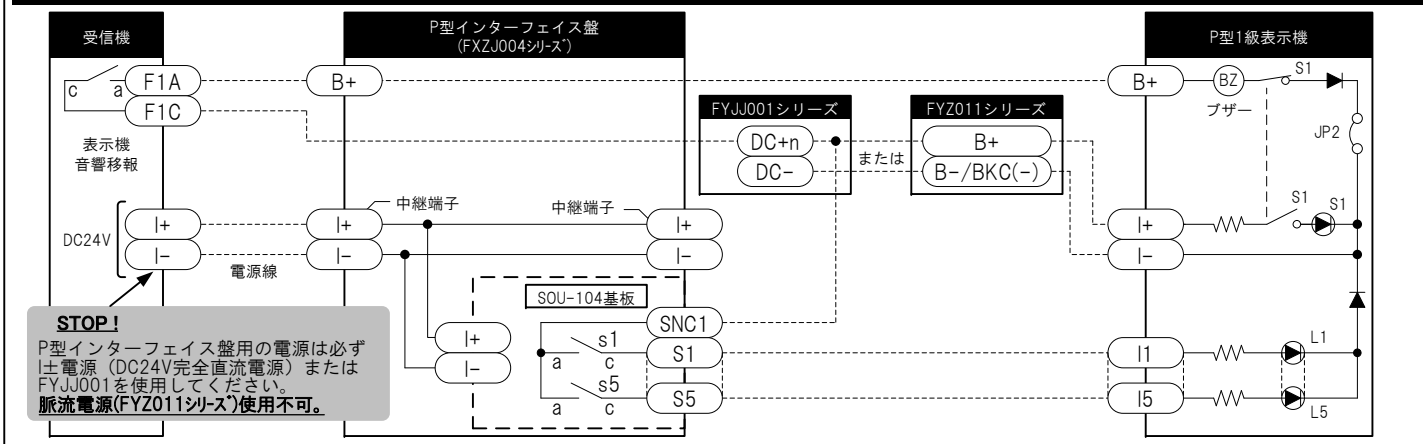
MEMO

接続図 (P型インターフェイス盤を個別移報として使用する場合)



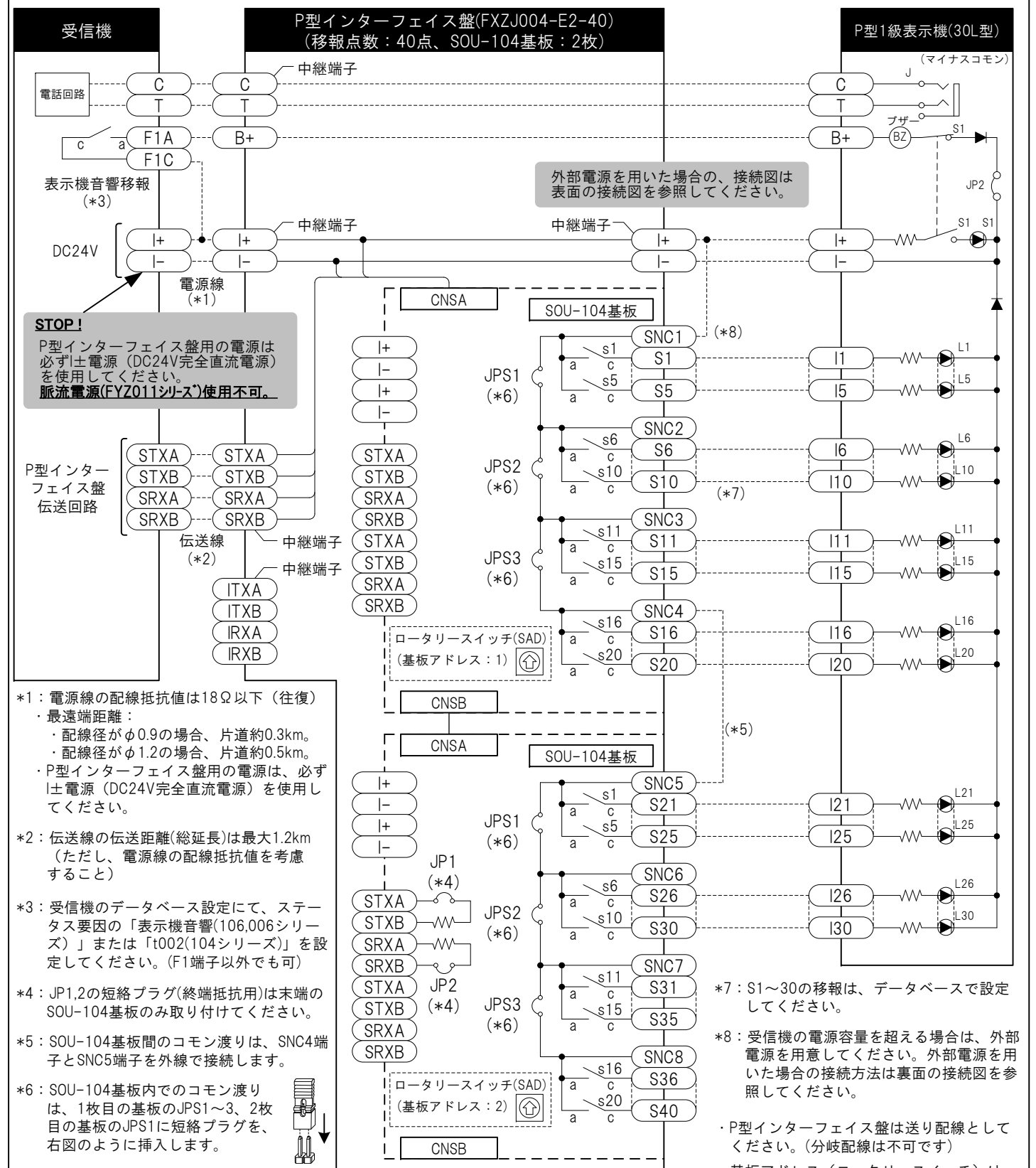
- *1: 電源線の配線抵抗値は、18Ω以下 (往復)
 ・最遠端距離：配線径がφ0.9の場合、片道約0.3km。
 配線径がφ1.2の場合、片道約0.5km。
 ・P型インターフェイス盤用の電源は、必ず±電源 (DC24V完全直流電源) を使用してください。
- *2: 伝送線の伝送距離 (総延長) は最大1.2km (ただし、電源線の配線抵抗値を考慮すること)
- *3: SOU-104基板内でコモン渡りをする場合は、下図のように、短絡プラグをJPS1~JPS3に挿入してください。
- *4: 複数のSOU-104基板でコモン渡りをする場合は、外線で接続してください。
- *5: 外部移報接点の容量はAC/DC24V、1Aです。AC/DC24Vに対応できるのは、PCA1297の末尾が2以降です。末尾が2より前の基板はDC24Vです。S1~S□端子の移報は、データベースで設定してください。
- *6: JP1,2の短絡プラグ (終端抵抗用) は、末端のSOU-104基板のみに取り付けてください。

完全直流電源 (FYJJ001シリーズ) または脈流電源 (FYZ011シリーズ) を用いた表示機との接続例



- *1: P型インターフェイス盤用の電源は必ず±電源 (DC24V完全直流電源) または脈流電源 (FYJJ001シリーズ) を使用してください。脈流電源 (FYZ011シリーズ) 使用不可。

表示機との接続例 (S1~S30端子を使用し、30L型表示機と接続する場合)



- *1: 電源線の配線抵抗値は18Ω以下 (往復)
 ・最遠端距離：
 ・配線径がφ0.9の場合、片道約0.3km。
 ・配線径がφ1.2の場合、片道約0.5km。
 ・P型インターフェイス盤用の電源は、必ず±電源 (DC24V完全直流電源) を使用してください。
- *2: 伝送線の伝送距離 (総延長) は最大1.2km (ただし、電源線の配線抵抗値を考慮すること)
- *3: 受信機のデータベース設定にて、ステータス要因の「表示機音響 (106,006シリーズ)」または「t002 (104シリーズ)」を設定してください。 (F1端子以外でも可)
- *4: JP1,2の短絡プラグ (終端抵抗用) は末端のSOU-104基板のみ取り付けてください。
- *5: SOU-104基板間のコモン渡りは、SNC4端子とSNC5端子を外線で接続します。
- *6: SOU-104基板内でのコモン渡りは、1枚目の基板のJPS1~3、2枚目の基板のJPS1に短絡プラグを、右図のように挿入します。

- *7: S1~30の移報は、データベースで設定してください。
- *8: 受信機の電源容量を超える場合は、外部電源を用意してください。外部電源を用いた場合の接続方法は裏面の接続図を参照してください。

<p>注意</p>	<p>濡れた手でP型インターフェイス盤内部に触れないでください。 感電のおそれがあります。</p>	<p>注意</p>	<p>各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。 誤った場合、故障や発火の原因となります。</p>
<p>注意</p>	<p>受信機とP型インターフェイス盤の結線は、必ず受信機の電源をOFFしてから行ってください。 感電、故障の原因となります。</p>	<p>警告</p>	<p>受信機でMCU-スレーブ間伝送異常 (SOU) またはE30 (SOU-104基板伝送異常) が発生した場合、基板アドレスが重複または配線が断線・短絡していないかを確認してください。基板アドレスが重複または配線が断線・短絡していると、P型インターフェイス盤は正しく動作しません。</p>
<p>注意</p>	<p>P型インターフェイス盤の±の入力端子には、必ず完全直流電源を使用してください。脈流電源を接続すると、電源装置のヒューズが切れるか、P型インターフェイス盤の基板が故障する可能性があります。</p>	<p>警告</p>	<p>受信機でMCU-スレーブ間伝送異常 (SOU) またはE30 (SOU-104基板伝送異常) が発生した場合、基板アドレスが重複または配線が断線・短絡していないかを確認してください。基板アドレスが重複または配線が断線・短絡していると、P型インターフェイス盤は正しく動作しません。</p>